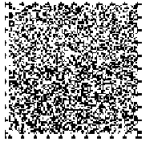


ありが

バ ヒューマン ドキュメント



米盛章子さんと米盛大翔くん

よねもり ひろと 【米盛大翔くん】 鹿児島市

パソコンが魔法の道具箱

鹿児島市の武岡台養護学校小学部4年の米盛大翔(ひろと)くんが、パソコンを使って絵を描き始めたのは小学部1年のとき。母親の章子さんによれば「絵が消えていくのが残念でファイルの保存のしかただけを教えたんです。そうしたら1、2か月の間にすごい数の絵が保存されていて。最初のお気に入りの主題はペンギン。水族館や動物園が大好きな大翔くんの作品にはゾウやキリンなど、動物たちがにぎやかに遊んでいる。



大翔君のCG作品「おさんぼ」は、全国から24万点余りの応募があった住友生命主催の第32回子ども絵画コンクールで、優秀作品100点(銀賞)に選ばれ、2009年3月から1か月間、フランス・パリのルーブル美術館で展示された。



章子さんの職場の上司が作ったブログ「大翔ギャラリー」で大翔くんの作品を見ることができる。
<http://blogs.ya100.co.jp/yonemorihiroto>

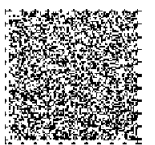
場所に行くことで、人に見てもらおう喜びも感じるようになっていった。大翔くんの絵は、少しずつ変化している。最初は青ばかりだったが、色のパリエーションが豊かになった。最初は笑顔の絵だけだったが、違う表情も描くようになった。昨年末に、最初の作品集「ひろと いっしょが あったかいね」を出した。そのページをめくっていると、そこには子どもたちのきらめくような視線が凝縮されている。

子どもたちが暮らしやすい鹿児島にしたい

章子さんは、大翔くんの障害と向き合うことで、自分も変わったと感ずくという。「最初は、愚痴をこぼすよつなこともあったのです。でも、養護学校で、わが子のために努力されてこられた保護者の方々や、子どもたち

のために日々奮闘される先生方、通学バスで言葉掛けをされる地域の方々やと接するようにになって、わたしもいろいろなことへ気づかされました。泣いて暮らすより笑って暮らすほうがいい。このような中で過ごす穏やかな安定した日々が大翔にたくさんの経験をさせ、人に何かが伝わる絵を描かせていただいているのだと思います。」

「大翔のような自閉症の子どもたちは、人の怒りやイライラにいたたまれなくなり、落ち着かなくなり。だから、私たちが優しく穏やかな気持ちで接することが大事です。子どもを注意するとき、声を荒らげると周りにいる子どもまで傷つけてしまうこともあるのです。叱るときも周りに配慮するなど、そうした心配りの大切さは大翔といることで気付かされました。ほかにも気付かせてくれることがたくさんあって、絵を描くからとかではなく、この子が自分の子として生まれてよかったです。」



大翔くんのCG集
「ひろと いっしょが あったかいね」
(2008年12月刊)64ページ。1部2500円。
お問い合わせは、慈愛会クリニック 米盛まで
FAX 099-226-5712

障害者雇用体験事業と トライアル雇用

薩摩川内市の千畳屋は地域に根ざした家庭畳専門
店。宮元宣臣さんと3代目になる。

「千畳屋という名前にして会社組織にしたのは昭和53
年。先代が『名前は大きかろうが良か』と付けた名前
で、名前負けせんこと私も一所懸命しかたです。」

「人手が足りなかつたものですから、よい人がいない
か探していましたら、商工会議所の知り合いの方で障
害者を雇われている方がいらして『すごく頑張ってく
れるよ』と、鹿児島障害者職業能力開発校の担当者を
紹介していただきました。昨年6月です。」

開発校の方から、かこしま障害者就業・生活支援セ
ンターを紹介され、センターの登録者の中で千畳屋の
希望に合うOさんを紹介された。Oさんは知的障害が
あるが、県外で働いた経験もある。実家のある薩摩川
内市で暮らすようになって、かこしま障害者就業・生
活支援センターに登録して仕事を探していた。

まず、就業・生活支援センターの「企業による障害者
雇用体験事業」を利用して、試験的に2週間の雇用実
習を行った。さらに事業主が障害者を短期の試行雇用
の形で受け入れるハローワークの「トライアル雇用制
度」を利用して3か月間雇用後、その働きぶり
を見て、11月から正社員とし
て採用した。

その採用までの経緯で、就
業・生活支援センターの支援
員が、補助金など制度の説明
からOさんの家庭訪問まで、熱
心にサポートして

くれてとても助かっ
たという。



有限会社 千畳屋(せんじょうや) 「心と心がつながれば お互いに気持ちよく働ける」



畳の角綴じをするOさん



有限会社 千畳屋
〒895-0061
鹿児島県薩摩川内市御陵下町2-64
TEL 0996-22-4322
FAX 0996-22-5792
〈営業時間〉8:00～17:30
〈休業日〉日曜日

千畳屋の宮元宣臣さん。
千畳屋のキャッチフレーズ
は「愛(あい)・夢(ゆめ)・友(とも)・心(こころ)」。
畳(じょう)と情(じょう)の
語呂合わせ。畳のランク付け
にも使われていて「愛(あい)畳」が
いちばん高いそうだ。

職場との相性と適切なフォローで 意欲を持って仕事に取り組む

雇用実習やトライアル雇用を利用してみて
宮元社長が感心したことは、Oさんの勤勉さだ。
「休むことなく、毎日就業15分前に来られる。最
初、その勤勉さに驚きました。彼にびつたりの
仕事だったんじゃないですかね。」

「最初は『障害者』で大丈夫かなという気持ちも
あったんですけども、同じひとりの人間です
からね、最終的には心と心がつながれば全く違
和感もない。もちろん仕事の面で注意すると、
気にし続けるという面はあります。そこはきち
んとフォローして、心から触れ合っていけば、
すごく気持ちよく働いてくれます。」

現在、宮元社長とOさんの二人で畳づくりを
している。Oさんは、畳の縁をつけて、縁を曲げ、
角を綴じ、縫いつけて、最後の仕上げをする
という工程を担当している。その動きはとてもス
ムーズだ。

「畳の縁の角を綴じるのは難しい作業で、工程
の中でも肝心なところなので、センスが無いと
できない。これを覚えるのが早かったですね。
1か月ぐらいで習得しました。ちゃんと上達し
ていくから、育てがいがあります。」

Oさんのお両親の話では、以前と変わって、
楽しく出掛けていって、すこしく元気に帰って
くるようになったという。Oさんの仕事ぶりは、
集中していて頼もしい。Oさんも「いろんな種
類の畳があって楽しいです。この仕事が好きで
す。ここで働くようになって良かった
です。」と語り、意欲を持って仕事に取
り組んでいる。

